

# 我が国の基幹産業を支える 名古屋港の機能強化に関する 要望書



平成28年1月

名古屋商工会議所

# 要 望

日ごろは、名古屋港の発展のために、格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

中部地域は、従来より、地域の雇用を支える自動車産業、工作機械、電機、鉄鋼等の製造業が集積し、近年は、名古屋港臨海部を中心に、ボーイングやMR Jなどの航空機産業の拠点化が進んでいます。

現在、自動車関連産業を中心に、世界的な需要の増加に対応するため、東南アジア諸国で生産拠点を確保しておりますが、その一方で、海外で現地調達ができない部品や、製造が困難なコア部品などは、引き続き日本をマザー工場として国内生産機能を維持・拡充するための設備投資も積極的に行っており、今後も名古屋港は、この地域の産業発展に欠かせない非常に重要な社会インフラであります。

このような状況のなか、近年、特に貨物量が急増している東南アジア航路では、コンテナ船の急激な大型化が進んでいます。

名古屋港においては、主に飛島ふ頭東側コンテナターミナルを利用していますが、現状でも水深が不足し、喫水調整による入出港を余儀なくされております。今後、更なる船の大型化に対応できない状態が続けば、これまで以上に、東南アジア諸国との非効率な物流が改善されず、我が国経済を支えるこの地域の基幹産業にも多大な影響が出かねません。

以上のことから、中部地域の基幹産業が、更なる成長を続けて、我が国の経済活動に大きく貢献するため、**必要な港湾の予算を確保**していただき、この地域の製造産業の物流効率化に必要不可欠な『**飛島ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化**』の、早急な実現に向けて格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年1月

名古屋商工会議

会頭 岡谷 篤

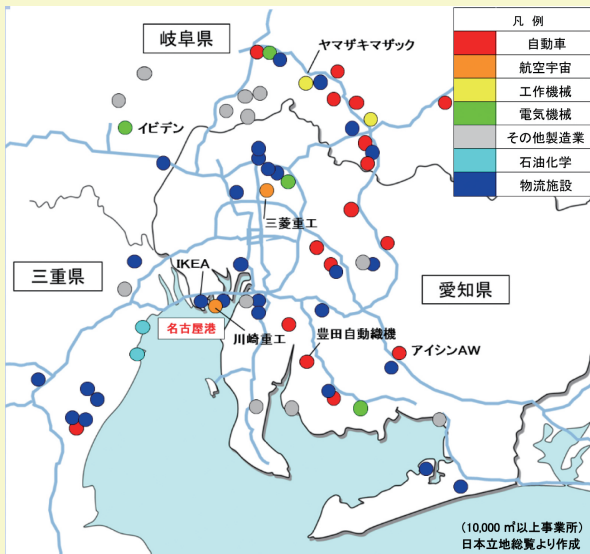


# 立地企業の投資動向

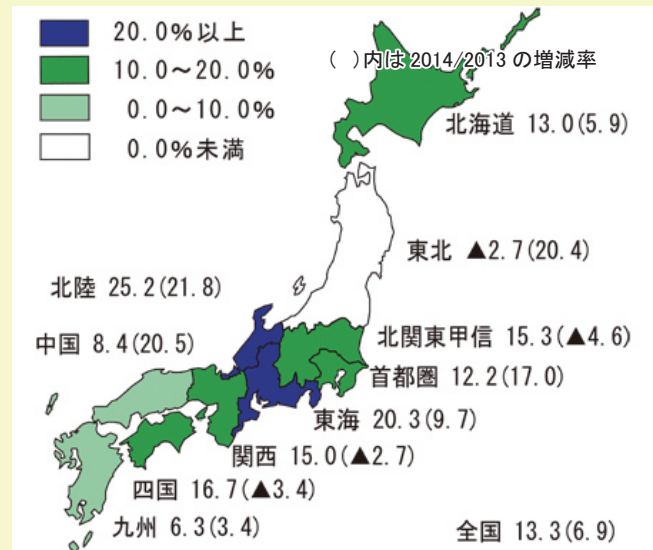
名古屋港の背後地域には完成自動車、自動車部品、工作機械、航空機など基幹産業が集積し、設備投資が積極的に行われている

## 企業の投資状況

過去10年間の企業立地・投資状況をプロット



## 地域別設備投資増減率 2015/2014(%)



(株)日本政策投資銀行資料

## 課題 喫水調整による積荷量制限



○輸送機械など重量の重い輸出貨物が多く、喫水の制約により希望する船に全量積載できない事態が発生しています。

○このため貨物の一時保管といった不要コストの負担を強いられています。

